

地形図で見る飛騨川

岐阜県の地勢を一言で表わした「飛山濃水」という言葉があります。そこから分かるように飛騨地方のほか県下の山地・高原には、河川が形成した渓谷がよく発達しています。その代表河川の一つ飛騨川は、乗鞍岳を源流とし飛騨地方を南流して美濃加茂盆地で木曾川に合流しますが、途中でいくつかの峡谷を形成しています。

木曾川合流点よりやや上流側の七宗町上麻生から白川町白川口までの約12kmは代表的な峡谷で、飛水峡と名付けられています。中でも上麻生橋から上流約2kmの間は、ロックガーデンと呼ばれ、規模、数において日本有数の甌穴（ポットホール）が河床の岩盤の上に見られます。これは河川によって運ばれてきた砂礫が急流によって渦巻運動を起こし、岩盤の表面にある割れ目や断層などに沿ってできた円形の穴です。この地域では河川の浸食作用が強く働いたうえに、河床が堅いチャートでできているため集中して形成されたと考えられています。この甌穴は直径1m以下の大きさのものが比較的多く、大小とり混ぜて1000個以上が確認されており、付近の景観とあわせて国の天然記念物に指定されています。また、昭和45年にこの河床にある上麻生礫岩に含まれる片麻岩が、日本最古の岩石であることがわかり大きな話題となりました。

水量の豊富な飛騨川は木曾川などと異なり、大規模なダムは建設されていません。渓谷の中腹の小規模な河岸段丘上に発達した集落を結んで、JR高山本線や国道41号が走っているからです。そのため堰を設けて、トンネルやパイプを通して水を下流の発電所まで導き、その間の落差を利用した水路式発電を行っています。ダム式発電に比べ発電規模は小さいのですが、建設費が少なくてすむなどの利点があります。その堰と取り入れ口は地図の右上の海拔標高約180mの地点にあり、途中の流路は青の点線で示されています。発電所は地図の左下、上麻生戸狩の標高130mの地点に設けられており、ここからは送電線が上流の発電所からのものと合流して、南西に向かって伸びているのが分かります。

地図右上の大柿集落から国道41号を上流へ約1km行った地点には、昭和43(1968)年8月、この地方を襲った集中豪雨が山地斜面の崩壊と増水を引き起こし、そのために発生した観光バス転落事故(死者104名)の慰霊碑も見られます。これは自然災害の恐ろしさを忘れないための記念碑ともなっています。この事故以降、国土交通省は時間降水量が一定以上に達すると峡谷沿いの道路を閉じ、交通を遮断して危険を避けるようにしています。

図 2.5万分の1地形図「河岐」【平成11年 国土地理院発行 70%に縮小】

「世界分布図センター」には、13万点を超える分布図・地図、地図関連図書があります。

また、「情報工房」ではコンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナル地図や分布図を作成し、印刷することができます。

調査・研究や学習、国内外の旅行の準備等にお気軽にご利用ください。

岐阜県図書館

世界分布図センター・情報工房

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

TEL (058) 275-5111 (内線286)

FAX (058) 275-5115

URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>

E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp